

研修部会・福祉用具部会合同企画

川村義肢 工場&ショールーム  
見学ツアーの報告

4月8日(水)12時45分にJR住道駅改札口に集合し、川村義肢株式会社の工場&ショールームに向かいました。参加者は11名でした。



到着してから暫くの間1階ショールームを見学していましたが、その後担当の国広さんに案内されて会議室に向かい、荷物を置いてから歴史展示室に移動。ここには昔使われていた竹製の義足や桐箱に入れて保存されている「恩賜の義足」、目的に合わせて作られた様々な義手などが展示されています。義肢の歴史について展示を見ながら説明を聞きました。



次に義肢装具の製作が行われている3階へ移動。国広さんから説明を聞きながら、義足を手にとってみます。重いのに少し驚きましたが、「実際の足はもっと重いです」と言われて納得。人の足を持ったら重いけれど、自分の足は身体の一部なので重さは感じていないのですね。製作の殆どは手作業だそうで、いろいろな体幹や足の型に向かって多くのスタッフが作業をされていました。スポーツ選手用の義肢のサンプルや、義足を付けたワンちゃんの写真もありました。下肢装具は要望に応じてデザインを施してもらえらしく、大阪ならではの豹柄もあるようです。



それから2階へ。車いすの修理改造をしているところでは、数多くの調整前の車いすが並んでいましたが、一つとして同じ車いすはありませんでした。



コルセットや規格品のコーナーを見学後1階に降り、採型室を経由して到着した中庭は、義足や装具を装着して歩行訓練ができるように、屋外の様々な条件を想定した造りになっていました。実際の陸上競技場と同じような70mの走行レーンも併設しています。

工場見学はここまで。会議室に戻り福祉用具開発担当者から、下肢装具や入浴補助用具の製品開発に関する考え方や経緯について、動きを交えながらの説明を伺いました。最後に玄関前で記念撮影をしてから近くの公園へ移動し、軽くお花見をしてから解散となりました。



義肢や装具の製作は、もっと機械化されていると思っていましたが、意外とアナログだったので少し驚きました。でも一人ひとりの身体にきちんと合うものを造る際に必要になる微調整は、やはり人の手に勝るものはないのかもしれない。工場内部の雰囲気や開発担当者の商品開発にける心意気に触れたあとのビールは、満開の桜も手伝って非常に美味しかったですね。

[研修部会：山本尚子]